

伊東市総合計画 第7回 未来ビジョン会議

グループディスカッション <結果概要>

- 〈開催日時〉 令和6年12月17日（火） 18:30～20:00
- 〈会場〉 伊東市役所2階中会議室
- 〈参加者〉 未来ビジョン会議委員9人
(Bグループ及びCグループの一部は別日に開催)
- 〈テーマ〉 伊東市の将来像を描き、将来像実現のための解決策を考える。
- 〈意見交換の内容〉

テーマ「伊東市の将来像を描き、将来像実現のための解決策を考える」では、下記にある各グループのテーマにあわせて、**地域・社会のビジョン、対象者・顧客の理想的な未来、変化した後の自分自身の姿勢**について話し合った後に、それに起因する**解決策**を考えた。また、市長へのプレゼンテーションに向けた準備を行った。概要については次頁のとおり。(意見のまとめ方については、各グループのやり方に合わせているため、グループごとに異なります。)

グループ1	グループ3
テーマ1 危機管理・自然・環境・都市	テーマ3 医療・健康・福祉・教育・歴史・文化
小倉 純一	田畑 まどか
辻 駿太	八木澤 恵子
濱崎 優翔	吉田 勇輝
岡田 圭祐	片桐 基至（延期）
伊藤 宮之	鈴木 奈都菜（延期）
上原 啓慎	平岡 愛菜（延期）

敬称略

■テーマ 1 危機管理

キャッチフレーズ【みんなでたのしく、ひとりでつよく。】

○地域・社会のビジョン

- ・ 市民が安心・安全に過ごすことができる。
- ・ 楽しく学べる防災教育の普及
- ・ 消防団に加入する意識を多くの人を持つようになる。
- ・ 災害時に船による輸送や救護活動ができる体制が整っている。
- ・ 観光客がどこに避難すればいいかわかるようなマップがまち中にある。

○対象者・顧客の理想的な未来

- ・ 一生、不安を感じない。
- ・ 市民が誘導する観光客避難
- ・ 市外の方が「安全で安心なまち」というイメージで伊東市に訪れる。
- ・ 外国人も安心して旅行ができる。

○変化した後の自分自身の姿勢

- ・ ハザードマップの確認や非常食を点検し、充実させる。(自分から行動する。)
- ・ 防災訓練に参加する。
- ・ ご近所とのコミュニケーションを大切にする。

○解決策

- ・ 「ランダムな出発地から訓練」など、防災訓練を定期的なイベントとして開催する。
- ・ 年代の違う「たてわり」で訓練や学習、教育をする。
- ・ 災害の歴史を学ぶイベントを開催
- ・ 中高生や観光客を対象に災害史跡へのフィールドワークを実施
- ・ 消防支援活動専門員を18歳以下まで門戸を広げる。
- ・ 伊東の防災士の資格を作る。
- ・ 大島町との災害協力協定を締結
- ・ ウォーターフロント構想を中型・大型船の接岸が可能なものとして検討する。
- ・ 海保・海自と伊東市協力して海上物資輸送訓練を実施する。
- ・ 貨客混載を前提としたカーフェリーの実証実験（東京～伊東間）
- ・ 市民、観光客、外国人も使える防災アプリの開発
- ・ 簡易な滑走路の整備
- ・ 10～20年経った災害協定の点検協議の実施
- ・ 伊東市と伊豆急が災害協定を締結



■テーマ 2 都市

キャッチフレーズ【人をシェアする 時間をシェアする】

○地域・社会のビジョン

- ・ 便利でサステナブルなまち
- ・ 住むもしくは起業により、空き家撤廃
- ・ 道路拡幅により渋滞解消
- ・ 公共交通と徒歩で完結し、にぎわいのある中心市街地
- ・ 高校生が集うことでにぎわう。

○対象者・顧客の理想的な未来

- ・ 自家用車・公共交通・徒歩どれも楽しめる。
- ・ 鉄道とバスの公共交通定期券、1日乗車券が実現し、安く移動ができる。
- ・ バス運転手が魅力的な職種となり、運転手不足にならない伊東
- ・ 他地域の資本を介さず、自地域の再生資本、支出のみで再生可能エネルギーに投資し、自らの地域でお金を回すようにする。
- ・ シェアサイクルで、中心市街地やその周辺を気軽に移動できる。
- ・ 空き家がサードプレイスとなって、若者も高齢者も居場所のある中心市街地
- ・ 高校生や20代の若者が、徒歩で通える居場所がある。
- ・ 夏はサーフィン、冬はスケボーの文化が盛んになっている。中心市街地にスケボーができる場所がある。

○変化した後の自分自身の姿勢

- ・ まちを歩いていい点、悪い点を発見する。
- ・ ずっと伊東に住み続けたいと思う。
- ・ 伊東の良さを SNS で発信する。
- ・ ビーチクリーン活動に参加する。
- ・ 「ふるさと」として、伊東を意識してみる。
- ・ 近隣他地域のサードプレイスや先進的コミュニティに参画し、まちづくりのノウハウを吸収する。
- ・ 電車やバスを使用し、伊東市内の楽しみ方をクローズアップする。

○解決策 ①

- ・ 鉄道とバスの交通定期券、1日乗車券が実現し、安く移動ができる。
- ・ シェアサイクルで中心市街地やその周辺を気軽に移動できる。
- ・ 一定の距離以上の利用に対して通勤・通学定期の補助
- ・ バス・運転士確保のための財政支援（祝金、2年限定の定額給付金）
- ・ シェアリングエコノミー導入（レンタサイクル実験の展開など）
- ・ 公共交通を使った交流を伴う地域コミュニティへの鉄道・バスの運賃補助（市内遠足の利用時など）
- ・ 空き家利用について、高校生の起業支援を促進

○解決策 ②

- ・まち歩きによる発見をした際、市長に積極的な提案をできるように、その機会を設けてもらう。
- ・空き家調査を事業者と一緒にやり、入室希望者とマッチングする。
- ・立地適正化計画の居住誘導地域への補助金新設
- ・高校生びいきなコミュニティカフェのような中高生の居場所のために、中学生、高校生、大学生、市長のコミュニケーションの場を作る。
- ・ビーチクリーン活動へ参加
- ・伊東の良さをSNSで発信
- ・三信伊東駅支店跡地、藤の広場等の遊休地・公共用地の活用のあり方を検討する実証実験を兼ねたイベントの実施



■テーマ 福祉

キャッチフレーズ【生涯「ありがとう」と言い合えるまち】

○地域・社会のビジョン

- ・高齢者になっても収入を得ることができる。
- ・身寄りのない人が社会とつながることができる。
- ・図書館や釣具屋など、1人で行っていいところの充実

○対象者・顧客の理想的な未来

- ・地域に“つながる”窓口となっている人が増える。
- ・ペットに限らず、資金不足の団体へクラウドファンディングを活用できるよう、支援してくれる人が増える。
- ・見守りロボットなどを活用し、家にいながら、つながることができる。
- ・高齢者がスマホやタブレットを使いこなせる。
- ・地域にある人的な支援の見える化
- ・運転ボランティアの充実
- ・自分の役割を持っていたい。

○変化した後の自分自身の姿勢

- ・今よりもおせっかいになり、気にかけていく。
- ・自分自身が今以上に地域の資源を知るようにする。

○解決策

(高齢者の就労や生きがい・つながり)

- ・外国の方を対象とした物販
- ・空き家を活用し、高齢者が一人でも通えるような居場所を作る。また、その場所で生きがいとなるようなお手伝いができる。荷物の預かりサービスや流木を加工して販売するサービスなど。
- ・高齢者のeスポーツ教室の開催
- ・小学校にて使用するバッグ作り
- ・空き家を倉庫として活用する事業を実施
- ・社会資源をジャンル化したパンフレットを作成する。
- ・ボランティア登録制度を推進する。
- ・「地域のおせっかいさん」を表彰し、「おせっかい」をしてもいいという雰囲気作りをしていく。題して【Snoopy(おせっかいの英訳)制度】

